

実績報告書

届出者	住所	東京都千代田区大手町1-9-2	氏名	株式会社 野村総合研究所 取締役社長 此本 臣吾
特定事業者の主たる業種		39情報サービス業		
該当する特定事業者の要件		レ	大阪府温暖化の防止等に関する条例施行規則第3条第1号に該当する者	
			大阪府温暖化の防止等に関する条例施行規則第3条第2号に該当する者	
			大阪府温暖化の防止等に関する条例施行規則第3条第3号イ又はロに該当する者	
事業の概要		<p>NRIは「ナビゲーション」と「ソリューション」の二つのサービスを相乗的に機能させることで「トータルソリューション」を提供しています。この二つのサービスは、社会のほとんどの分野、企業活動や人々の生活にかかわるあらゆるテーマをカバーしています。</p> <p>「ナビゲーション」---お客様の課題や将来あるべき姿を提示し、調査、研究、マネジメントコンサルティング、システムコンサルティングなどのサービスを提供。</p> <p>「ソリューション」---情報システムの企画・設計から開発、運用処理までを手がけています。</p>		

◎ 温室効果ガスの削減目標の達成状況

(1) 計画期間	
平成 27 年 4 月 1 日～	平成 30 年 3 月 31 日 (3年間)

(2) 前年度における温室効果ガス総排出量

区分	基準年度(26)年度	前年度(28)年度
温室効果ガス総排出量	11,837 t-CO ₂	14,787 t-CO ₂
温室効果ガス総排出量(平準化補正後)	13,058 t-CO ₂	16,333 t-CO ₂
植林、緑化、森の保全による二酸化炭素の吸収量	0 t-CO ₂	

(3) 温室効果ガスの削減目標の達成状況

区分		削減目標 (29 年度)	第1年度 (27 年度)	第2年度 (28 年度)	第3年度 (0 年度)
選択	削減率(排出量ベース)	0 %	0 %	0 %	0 %
	レ 削減率(原単位ベース)	3 %	-1.9 %	-59.6 %	0 %
削減率(平準化補正ベース)		- %	-2 %	-59.8 %	0 %
吸収量による削減率		0 %	0 %	0 %	0 %

温室効果ガスの排出に係る原単位の設定内容(目標削減率(原単位ベース)を選択した場合のみ記入)

温室効果ガス排出量と密接な関係を持つ値	(UPS電力量のCO ₂ 排出量換算値)
(温室効果ガス排出量と密接な関係を持つ値を複数設定した場合の設定方法)	

(4) 温室効果ガスの削減状況についての見解(計画の最終年度に目標が達成できなかった場合、その理)

<ul style="list-style-type: none"> ・2016年度に大阪センターが原油換算1,500klを超過し対象事業所となったため昨年度より排出量が増加した。 ・IT機器以外の使用量を削減できたが、IT機器使用量の減少が上回った。 	
--	--

◎ 温室効果ガスの排出及び人工排熱の抑制並びに電気の需要の平準化のための対策

(1) 推進体制

大阪データセンターは2005年度にISO14001認証を取得しました。
野村総合研究所環境方針「地球環境保全に貢献するため、全従業員1人1人が環境に配慮したシステム運用サービスを提供し、継続的な環境改善活動を推進します。」

(2) 温室効果ガスの排出及び人工排熱の抑制並びに電気の需要の平準化のための対策の実施状況

1. 産業・業務分野

No.	温室効果ガス (GHG)の排出 及び人工排熱 の区分		事業所名	対策項目	対策の内容	実施スケジュール (年度)
	GHG排出	人工排熱				
1	レ	GHG排出	大阪データセンター	コード(1113) 空気調和設備 の運用改善	省エネVベルトへの変更で空調動力電力量を削減する。	27年度 ～ 29年度
	レ	人工排熱				
	レ	平準化				
2	レ	GHG排出	大阪データセンター 大阪センター	コード(4999) トップランナー商品の導入推奨	省電力機器(LED照明、低熱負荷)導入により電力負荷及び熱源空調負荷を軽減する。	27年度 ～ 29年度
	レ	人工排熱				
	レ	平準化				
3	レ	GHG排出	大阪データセンター	コード(1113) 熱源設備の熱 交換効率改善	モジュールチラーと新設ターボ冷凍機の運用で高効率運用を目指す。	27年度 ～ 29年度
	レ	人工排熱				
	レ	平準化				
4	レ	GHG排出	大阪データセンター 大阪センター	コード(1215) 電力損失及び 電圧降下の改善	高効率及び高力率機器の導入により、受電電力の上昇を抑える。	27年度 ～ 29年度
	レ	人工排熱				
	レ	平準化				
5	レ	GHG排出	大阪データセンター 大阪センター	コード(1113) 外気の有効活用	冬季のフリークーリング及び外気冷房により、使用電力を削減する。	27年度 ～ 29年度
	レ	人工排熱				
	レ	平準化				
6	レ	GHG排出	大阪データセンター	コード(5112) 照明の間引き	事業所内の照明の間引きの徹底	27年度 ～ 29年度
	レ	人工排熱				
	レ	平準化				

2. 自動車分野

No.	温室効果ガス (GHG)の排出 及び人工排熱 の区分		事業所名	対策項目	対策の内容	実施スケジュール (年度)
	GHG排出	人工排熱				
1		GHG排出		コード		年度 ～ 年度
		人工排熱				

(3) その他の抑制対策
